

**社会資本整備審議会 道路分科会 関東地方小委員会**  
**(令和5年度第2回)議事概要**

1. 日 時 令和6年3月6日(水) 15:00～16:30

2. 場 所 九段第3合同庁舎15階会議室(WEB会議併用)

3. 出席者

[委員長]

屋井 鉄雄 (東京工業大学特命教授・名誉教授)

[委員]

秋葉 正一 (日本大学生産工学部土木工学科教授)

大下 茂 (帝京大学経済学部観光経営学科教授)

久保田 尚 (埼玉大学大学院理工学研究科教授)

佐々木 淳 (東京大学大学院新領域創成科学研究科教授)

二村 真理子 (東京女子大学現代教養学部国際社会学科教授)

[関東地方整備局]

道路部長 野坂 周子

甲府河川国道事務所長 留守 洋平

千葉国道事務所長 藤井 和久

道路計画第一課長 木本 悠太

4. 議 事

(1) 挨拶

・ 関東地方整備局 道路部長

(2) 審議

令和6年度新規事業候補箇所の計画段階評価及び新規事業採択時評価

・ 新規事業候補箇所の選定の考え方

・ 新規事業候補箇所説明資料

一般国道20号 新山梨環状道路(桜井～塚原)

(3) その他

<委員からの主な意見等>

■令和6年度新規事業候補箇所の計画段階評価及び新規事業採択時評価

○一般国道20号 新山梨環状道路（桜井～塚原）

- ・新規事業化については妥当である。
- ・山梨県は富士山や果物等のポテンシャルを勘案すると、観光需要が劇的に増加する可能性がある。高速バスや、鉄道駅下車後の、一般道の渋滞解消は極めて重要であり、新山梨環状道路の整備は非常に有効であると考えられる。
- ・甲府周辺は観光で訪れたことがあるが、極めて混雑している。新山梨環状道路の整備によって交通容量が増加し、混雑緩和に寄与することは、重要と考えられる。
- ・リニア中央新幹線の開通により、東京や名古屋の通勤圏となるなど、甲府は発展する地域であり、新山梨環状道路は、この地域の活性化に役立つと考えられる。
- ・環状道路全体が完成しないと十分な機能を発揮できない部分もあることから、塚原から牛句の区間についても、早期整備が必要。事業全体のスケジュールを考えるべきである。
- ・計画段階評価については、現道の状況を考えれば、現道拡幅と比べてバイパスの方が合理的であることが明らかであり、妥当であると考えられる。

■その他

○千葉北西連絡道路の概略ルート・構造の検討状況について

- ・千葉北西連絡道路の計画検討が始まったということ、また、時間をかけて丁寧にコミュニケーションを図っていくというプロセスについて、地域の方々にしっかりと伝わるように示してほしい。
- ・千葉北西連絡道路の沿線地域は子育ての人気スポットであり、地域とのコミュニケーション活動については、教育委員会を通じて特定の小・中学校で意見を聞いたり、広報活動に協力してもらうと有効である。また、フェーズⅡでは模型を活用すると理解が深まり、関心が高まるので、そのような検討もお願いしたい。
- ・松戸などは医療機関が発達しており、また、国道6号や常磐道など放射道路との結節を踏まえると、企業や医療機関へのアンケート等については、沿線市だけではなく、もう少し広域でのコミュニケーションの取り方があっても良いのではないかと考えられる。
- ・課題設定において国道16号の渋滞が強調されているが、これから作る首都圏の高規格道路は、都市間の連結等、新しい機能を持つ道路を作ることが最も重要である。この地域とこの地域をこう連結することで、千葉県がこうなっていくという未来志向の課題設定を検討してほしい。

以上